

科 目 名	教育心理学				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	必修	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	瀧本 誓 (非常勤講師)		単位認定責任者	瀧本 誓	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>生涯を通じて、さまざまな教育的環境の中で学びながら、人は発達を遂げる。そして、ひとりひとりには個性豊かである。</p> <p>本講義では、その個性を育む「学び育つ場」（家庭、学校、地域）への心理学的理解と教育実践を深めるために、発達や学習、パーソナリティ、教育評価、教育支援等の心理学的過程における教育的問題に関する議論を行う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学び育つ場」における教育実践に必要となる心身の発達について、生涯発達の視点から考え、適切な教育支援への提案ができる。 2. 「学び育つ場」における教育実践に必要となる学習過程について理解し、学習支援への活かし方を提案できる。 3. 「学び育つ場」における教育実践に必要となる教育評価についての考え方と評価方法を理解し、適切な評価方法を提案できる。 4. 「学び育つ場」における教育実践に必要となるパーソナリティや知的能力等の個人差を理解し、適切な教育支援方法を提案できる。 5. 「学び育つ場」における教育実践に必要となる障がいや不適應への理解と合理的配慮に基づいた適切な心理教育的支援について提案できる。 				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20 %	定期試験		
	専門知識	30 %	定期試験		
	倫理観	%			
	主体性	30 %	振り返り課題や質問等における自発的取り組み		
	論理性	20 %	課題や発表、試験における考察や意見、およびその根拠の提示		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス (シラバスによる授業内容の説明) / 教育心理学とは何か				
2.	発達 (1) 子どもの発達はどのように進むのか? さまざまな発達段階の捉え方				
3.	発達 (2) 発達の最近接領域と教育はどのように関連しているのか? ヴィゴツキーの理論				
4.	振り返りと補足① 学校における発達について考えてみよう				
5.	学習 (1) どのようにものごとを覚えていくのか? 行動主義と認知主義				
6.	学習 (2) どのように一人できるようになるのか? 状況に埋め込まれた学習				
7.	学習 (3) 学びへやる気を支えるものはなにか? 学習への動機づけと自己調整学習				
8.	振り返りと補足② 学校における学習について考えてみよう				
9.	教育評価 (1) 教育評価はなぜ、どのように行うのか? 教育評価の目的と方法				
10.	教育評価 (2) 教育評価における学力や知能の捉え方				
11.	振り返りと補足③ 適切な教育評価とはどのような評価か考えてみよう				

12.	個人差の理解(1) 適応とパーソナリティとの関係は？ パーソナリティの捉え方				
13.	個人差の理解(2) 発達障がいへの適切な支援とは？ 学校におけるインクルーシブ教育と合理的配慮				
14.	個人差の理解(3) 学校におけるジェンダーの視点とは？ LGBT への配慮				
15.	振り返りと補足④ 多様性に配慮した教育について考えてみよう 最終課題：学校における支援の立案				
授業外学修について	【課題】 ノート作成を行い、それを参考に、振り返り課題に取り組むこと。 【復習】 授業後にノートの確認および作成（疑問点について文献を調べノートを作成） 【予習】 授業前にシラバスで授業内容を確認し、文献で下調べを行い、ノートに要約。 ※口頭説明やノートテイキング、プリント等で配慮が必要な場合は相談してください。				
教科書	教科書は指定せず、毎回プリントを配布します。参考文献を読みましょう。				
参考文献	鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎（2019）やさしい教育心理学 第5版 有斐閣 慶應義塾大学教養研究センター（監修）慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員（2014）. 学生による学生のためのダメレポート脱出法 慶應義塾大学出版会 西岡 加名恵・石井 英真・田中 耕治（2015）新しい教育評価入門 有斐閣 三宮 真智子（2018）メタ認知で〈学ぶ力〉を高める—認知心理学が解き明かす効果的学習法— 北大路書房 多鹿 秀継・上淵 寿・堀田 千絵・津田 恭允（2018）読んでわかる教育心理学 サイエンス社 田爪 宏二（編著）（2018）教育心理学 ミネルヴァ書房 その他随時紹介				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	○	×
成績評価の割合	50 %	0 %	30 %	20 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				

<p>試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で示すルーブリック（評価規準の表）に従い、すべての課題や試験は根拠に基づく意見を述べているかどうかを評価します。プリントや文献の内容や図表等をそのまま書き写したものからは、皆さんの理解度を知ることができません（評価できません）。 ・適切な引用（いんよう）を行わず、文献から書き写すことは剽窃（ひょうせつ）となります。絶対に行わないこと。 ・剽窃は絶対に禁止します。まとめサイト（Wikipediaなど）からの引用も不可。 <p>文中に適切な引用（著者と作成年を記載）を行うこと。文献一覧は、著者名や作成者名、出版年や作成年、タイトル、出版社や組織名、雑誌名と巻と掲載頁、DOI等を記載する。</p> <p>参考→ 引用について：科学技術情報流通技術基準https://jipsti.jst.go.jp/sist/index.html</p> <p>日本心理学会 執筆・投稿の手引き https://psych.or.jp/manual/</p> <p>複数の文献を記載するときは、著作者名のアルファベット順に並べましょう。</p> <p>（上に示した参考文献の書き方を参考に記載してください）</p> <p>ネット情報の場合は、著作者や作成年がわからない情報（ネットも含む）は引用不可。</p> <p>ただし、日本神経科学会による「脳科学辞典」「最新心理学事典」のようなサイトは、作成者や作成日、参考文献等が記されています。インターネットからの情報は、作成者と作成年が示されているサイトを参考にするようにしましょう（情報信頼性の確認を！）。</p> <p>参考→ https://bsd.neuroinf.jp/wiki/脳科学辞典:索引</p> <p>https://kotobank.jp/dictionary/saishinshinrigaku/ 平凡社 最新心理学事典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り課題の内容は「授業でわかったこと、わからなかったこと」「授業内容に関する問い」「次回の授業で検討される概念」などです。常に、自分の意見と根拠を示すことができるように、考察を深めるよう心がけてください。課題の提出は締め切り厳守です。 ・定期試験はノートとプリント（自筆のもののみ）を持ち込み可。ノート作成＝自学自習 ・定期試験は穴埋めと論述の問題で構成します。課題や定期試験の論述問題では、質問への意見は、結論だけでなく、その意見の根拠や事例も示してください。その際、参考とした文献は、必ず引用し、最後に文献の一覧を記載する習慣を身につけてください。 ・個人思考と集団思考を組み合わせ、議論し、発表するアクティブラーニングの時間を授業で一度設ける予定です（コロナウイルスの拡大状況によってはレポートに変更）。 ・遠慮せずに質問や意見をどうぞ。授業で直接あるいは、以下のメールアドレスまで質問や意見を送ってください。Mail Address : s-takimo@photon.chitose.ac.jp ・新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し、オンデマンドあるいはオンラインによる授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド授業を行うことがあります。
-------------------------------	---

(教育心理学)